

元旦メッセージ

2007. 1. 1. (月)
ベック兄メッセージ (メモ)
西軽井沢国際福音センター

引用聖句

イザヤ書 55章8節、9節

「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。——主の御告げ。——天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。」

エレミヤ書 29章11節

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ。——それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」

この約束は時代遅れのものではありません。私たちのためにも与えられている素晴らしいみことばです。『日々の歌』の中にも、素晴らしい言葉が出てきます。私の大好きな47番の中です。何回も何回も同じ言葉がくり返し出てきます。「私の主イエスよ。私の全てよ。ただあなただけを慕い行く」と。このように言える人は本当に幸せです。しかしそうでないかも知れません。そうすると私たちは嘘をつく者の集いとなるでしょう。

黙示録の中で、当時のエペソの教会に対して主は言われたのです。「あなたには非難すべきことがある。(黙示録2:4)。意味は、わたしはあなたと敵対している。「あなたははじめの愛から離れてしまった。(同)」。「私たちは離れていません」と言えるでしょうか。もしかすると離れているかもしれません。そうであるとするなら、私たちの集いは「離れた者どもの集い」になります。意識して全てを主イエス様の御手から受け取らなければ、また全てを主にゆだねなければ、私たちは愚かです。そうすると私たちは「愚かな者の集い」になります。主の目からご覧になると、私たちはイエス様につながっていなければどうしようもない者であり、私たちはそのどうしようもない者たちの集いになります。

しかし私たちの集いはいつも、「喜びの集い」であるべきです。もし私たちが上からの光に照らされるなら、次のように言わざるを得ないでしょう。「私たちは嘘をつく者であり、はじめの愛から離れた者であり、惨めでどうしようもない者です」と。しかし、悔い改めることができるということは、何と素晴らしいことではないでしょうか。

「悔い改める」と元気になります。悔い改めることは「喜びのもと」です。「祝福される秘訣」です。主の恵みの現われそのものです。

一人のノイローゼの姉妹と電話で話したのですが、姉妹は、「救われたのは本当によかったです。主イエス様に守られているから安心です。『日々の光』を読むと元気になり、感謝できます」と。

結婚式に招待されて福音センターまで来た人がいました。けれどこの集会所に入ろうとしません。理由は十字架を見たからです。食堂の中には十字架を見ませんでしたから、彼は披露宴に出席したのです。この人について言えることは、彼が無神論者であるなら平気で集会所にも入れたでしょうし、十字架があってもなくてもかまわなかったことでしょう。しかし宗教家であれば「十字架はつまづきの石となる」と聖書は記しています。十字架は何を語っているかと言いますと、人間は全く役に立たない者であり、どうしようもない者です。「どんなに努力しても自分の罪の問題を解決することはできません」と。

また、聖書学者であるスボルジョンは死ぬ寸前に質問されたのです。「あなたは何十年も聖書を勉強し、多くの国々で福音を宣べ伝えましたが、あなたにとって一番大切な真理は一体何ですか」。彼は直ぐ答えたのです。すなわち「イエス様は私のために死なれたということです」と。

多くの人々は告白します。何十年間も私は教会に行き、宗教生活をしました。しかし、「十字架を知らなかった」、「私はイエス様と一緒に十字架につけられたとは全く分かりませんでした」と、ある兄弟は証しされました。

聖書学者であるサウロ（後のパウロ）はイエス様に対して、またまことの救いに対して、全く盲目にされていたのです。イエス様を知るようになってから、彼は喜んで証ししました。「私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。（ガラテヤ 6：14）」と。

聖書の中心は、「イエス様の十字架」です。十字架に対する態度と、みことばに対する態度と、イエス様ご自身に対する態度とは全く同じです。十字架を通して、私たちはいかに愛されているか初めて本当の意味で知ることができます。だれにも愛されていないならば、悲劇的です。ノイローゼにもなります。ノイローゼになった人の顔の表情を見ると、寂しく、何の喜びもなく、希望もない顔です。

パウロはコリントにいる兄弟姉妹に書きました。「主を愛さない者はだれでも、のろわれよ。主よ、来てください。（Iコリント 16：22）」。

今日から始まる2007年は、間違いなく戦いの年になります。悪魔は、何とかして主を愛さないようになることを望んでいます。主を愛するために必要なことは、主を知ることです。十字架につけられたイエス様、また近いうちに来られるイエス様を知ることです。

主を愛している者は、主の現われを慕っています。

主を愛している者は、主の戒めを愛しています。また守っています。命令されたからではなく、主を愛しているからです。

主を愛している者は、主のことを紹介せざるを得ません。

イエス様を愛する者は、聞く耳を持つ者であり、主と話したい、主と交わりをしたい気持ちでいっぱいです。ペテロは、「主よ。あなたはすべてをご存じです。私はあなたを愛しています」と言い、ダビデは、「私はあなたを慕います」と告白しました。

イエス様を愛する者は、自己実現したくない、主のみこころだけができるようにと願っています。主イエス様を愛する者は、主をお喜ばせしたいのです。

私たちの念願とするところは、主をお喜ばせすることです。この心構えの現われとは、どのようなものなのでしょう。

集会のある家族の目標は次のようなものです。

第一番目、「イエス様大好き」な家族になろう。

二番目、お父さんはイエス様に従い、お母さんはお父さんに従い、子どもたちは親に従う家族になろう。

三番目、みんなが優しい気持ちを心がけ、愛し合い、祈り合おう。思いやりを育てる家族になろう。

四番目、「ありがとう」が言える、明るい、優しい声の溢れる家族になろう。

五番目、家族の中から、意地悪な気持ちを追い出そう。

六番目、間違ったときには、「ごめんなさい」と言える家族になろう。

七番目、他の困った人や、悲しんでいる人のためにイエス様に祈る家族となろう。

八番目、イエス様に喜ばれる家族になろう。

私たちは、今年こそ主に用いられる器になりたい、と心から望もうではありませんか。そのために、心を一つにしてひたすら祈りましょう。

- ・イエス様大好きな集会になろう。
- ・兄弟たちはイエス様に従い、姉妹たちは兄弟たちに従い、子どもたちは親に従う集会になろう。
- ・みんなが優しい気持ちを持つように心がけ、愛し合い、祈り合う、思いやりを育てる集会になろう。

- ・「ありがとう」が言える、明るい、優しい声の溢れる集会になろう。
- ・集会の中から、意地悪な気持ちを追い出そう。
- ・間違ったときには、「ごめんなさい」と言える集会になろう。
- ・他の困った人や、悲しんでいる人たちのために、イエス様に祈る集会になろう。
- ・イエス様に喜ばれる集会になろう。

新しい年の日々は365日です。エノクはちょうど三百六十五才になり、天に引き上げられたのです。この世が裁かれる前に、すなわちノアの洪水の前に、エノクは引き上げられたのです。エノクの特徴は次のようなものです。「エノクは神とともに歩んだ。(創世記5:24)」と聖書は記しています。

今年の終わりに、あの兄弟は、あちらの姉妹は365日間、主とともに歩んだ、ということができるなら、何という幸いでしょう。

主とともに歩むこととは、どのようなことでしょうか。信仰によって歩むことです。目に見えるものに頼らないで、主を仰ぎ見ながら歩むことです。エノクは、主を恐れ、主を愛したのです。心から主を崇拝したのです。献身こそ彼の生活の特徴でした。

信仰とは何でしょうか。みことばに従うことです。そうでないと交わりはありません。エノクの時代はめっちゃくちゃな時代でした。しかし、エノクは主にだけ頼ったのです。妥協せず、主に仕えたのです。したがって彼は異分子のようなものでした。毎日毎日戦いの連続でした。

しかし大切なことは、
「私ではない。主のみこころだけができるように」。そして、「主のみこころ」とは、全ての人が救われて、真理すなわちイエス様を知るようになることです。

了